様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １２ 日現在

機関番号：３４５１１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１１０３９

研究課題名（和文）子ども虐待防止を目指した地域包括支援のための看護職の人材育成プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of nursing personnel training program for regional comprehensive support aimed at preventing child abuse

研究代表者
服部　律子（Hattori, Ritsuko）

神戸女子大学・看護学部・教授

研究者番号：７０２７３５０５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,500,000円

研究成果の概要（和文）：今回の研究では、妊娠期から地域を基盤とした「気になる母子」への支援において医療施設と地域の看護職のそれぞれの役割や実践内容と、協働した実践活動への課題を明らかにする。さらにその結果からそれぞれの立場で虐待防止活動に取り組むための医療施設と地域の看護職の資質向上を意図した研修プログラムを検討し、試行的に研修を実施評価し、妊娠期からの子ども虐待防止にむけた看護職の人材育成のあり方について検討した。
　人材育成の基礎的な資料として、子ども虐待防止を目指した「気になる母子」への支援について医療施設と地域の看護職及び多職種との連携と協働の実態と課題を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では、調査研究とともに人材育成プログラムの実施として、産後ケアセミナーを開催した。人材育成のテーマは、「ニューノーマル時代の産後ケアを考える」であった。研修会においては今までの研究成果として子ども虐待防止のための多職種連携の実際と課題について報告した。さらに産後ケアの実際や課題について、各方面の識者から教育講演をしていただき、助産師等看護職や行政の担当者、民間の子育て支援者等多職種が集まり、情報収集や交流がもてることを目的として多くの専門職の理解を得ることにつながった。このような研修会はニーズが高く参加者からも高評価を得た。今後も人材育成の取り組みとして推進されるべきであると考えられた。

研究成果の概要（英文）：In this study, we clarified the roles and practices of medical facilities and community nurses in providing community-based support for "worried mothers and children" from pregnancy onwards, and the challenges of collaborative practice activities.Furthermore, based on the results, we considered a training program aimed at improving the quality of medical facilities and regional nurses to work on child abuse prevention activities from their respective standpoints, conducted training on a trial basis, and evaluated it to prevent child abuse during pregnancy.As basic materials for human resource development, we clarified the actual situation and issues of collaboration and cooperation between medical facilities, local nursing staff, and multi-professionals regarding support for "concerned mothers and children" with the aim of preventing child abuse.

研究分野：母子看護

キーワード：虐待防止　多胎育児支援　多職種連携　妊娠期からの支援　産後ケア

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

子ども虐待の相談件数は年々増加の一途をたどり、子どもの健全な育成を目指す子育て支援施策の重要な課題となっている。虐待のみならず育児困難の予防には周産期の看護職の支援が不可欠であり、特に妊娠期からの関わりの重要性が指摘されている。また支援においては地域包括の視点を取り入れた医療保健福祉の連携と協働が求められており、看護職のアセスメントや実践能力が鍵となっている。本研究では、妊娠期から地域を基盤とした「気になる母子」への支援において医療施設と地域の看護職のそれぞれの役割や実践内容と、協働した実践活動への課題を明らかにする。さらにその結果からそれぞれの立場で虐待防止活動に取り組むための医療施設と地域の看護職の資質向上を意図した研修プログラムを検討し、試行的に研修を実施評価し、妊娠期からの子ども虐待防止にむけた看護職の人材育成のあり方について検討する。

２．研究の目的

本研究の目的は、子ども虐待防止を目指した「気になる母子」への支援について医療施設と地域の看護職及び多職種との連携と協働の実態と課題を明らかにし、看護職の資質向上のための虐待防止の役割発揮を目指した人材育成プログラムを開発することである。

３．研究の方法

全国の周産期医療センター406 病院（厚生労働省ホームページによる）の産科病棟と産科外来にハイリスク妊産婦の医療施設と行政の地域保健との継続支援について質問紙調査を行った。質問紙調査の内容は、産科病棟の概要、妊娠期の地域との連携の課題、出産後の連携の課題、産科外来との連携の課題、コロナ禍における支援の課題などである。課題の具体的な内容は自由記載とした

４．研究成果

回答数は 121 件（29.8%）であった。

１）対象施設の概要

平均産科病床数は 28.7±14.7 床、MFICU の平均病床数は 6.2±2.3 床、NICU の平均病床数は 9.2±5.0 床、GCU の平均病床数は 10.5±8.0 床、平均分娩件数は 562.0±417.8 件であった。

２）入院中のハイリスク妊婦の妊娠期における地域保健との連携

（1）入院中のハイリスク妊婦のスクリーニング

すべてのハイリスク妊婦について地域の保健師に連絡している病院は 35 件、一部のハイリスク妊婦について連絡している病院は 79 件、ほとんど連絡していない病院は 7 件であった。連絡方法は、入院中のハイリスク妊婦は、電話での連絡が 20 件、文書での連絡が 8 件、電話と文書の両方の連絡が 74 件であった。退院時のハイリスク産婦については、電話での連絡が 19 件、文書での連絡が 8 件、電話と文書の両方での連絡が 90 件であった。また文書の様式が都道府県で決められている様式を使っている病院が 74 件、決まっていない病院が 32 件であった。

（2）妊娠期における地域との連携での課題

大分類	分類	記述内容
他機関との認識に差があり、タイムリーな支援につながっていない（24）	市町村によってハイリスクの認識や対応に差があり、担当者によってもケアのきめ細やかさに差がある（12）	市町村によって体制に差がある
		病院でハイリスクと認識していても市町村間で取り組みに差がある。取り組んでくれる地域と病院任せの地域がある。
		地区により対応の速度に差がある（保健センターの体制などによるのかも知れない）
		縦割りの行政、各市町村によって温度差がある。又は担当個人によって連携に対するシステムや、取り扱うスピード、ケアのきめ細やかさに差があると感じる。
		地域間で格差があるかも・・・
		市町村によって、保健師の人数の差にもよると思うが、対応が十分な地域とそうではない地域のばらつきがある
		市町村によって、連絡後に対象者と直接コンタクトをとっていただくのに時間がかかる地域がある。市の場合、1人のPHNが抱えているケースが多いのだと思う。
		地域によってハイリスク妊婦について保健師の対応がことなる
		病院側が思う程、地区が動いてくれていない
		市町村によって、妊婦の支援に対する手厚さが違う
		自治体による温度差が大きい（特定妊婦の判断基準など）
		市町村で問題として認識するのに基準がない。意識の違いがある。
	緊急性の捉え方などに病院と行政に差があり、タイムリーな対応ができていない（9）	連絡と地域の報告にタイムラグあり 早い関わりをお願いしてもなかなか妊婦とかかわるまで至らず
		タイムリーな情報交換、共有ができない
		タイムリーな情報交換と、病院と保健所の温度差
		地域での妊娠中の関わりは産後に比べると連携がタイムリーに行えていない。地域と病院の温度差
		緊急性（時間）やとらえ方（頻度や対策）の程度の差がある
		お互いの情報がもうすこし早くほしいと感じている
		土日、長期祝日（年末年始、GWなど）夜間連携がとれない（e）
		出生数が多い市町村の場合は、家庭訪問等のマンパワーが少ないと思うし、個人のリスク耐性が育っていないと感じることがある
		病院は24時間365日対応しているが、地域は平日の日昼に限られるため対応に困ることがある
	地域に妊娠期の情報を提供しても妊婦の支援に繋がらない（3）	妊娠期から連携の必要性を感じ情報提供を行っても、多忙なためか、必要性を感じないためなのか、行政から妊婦さんに連絡が入らない事もある。
		医療側が、妊娠初期から連携が必要だと考え、地域へ連絡しても、地域側との問題についての温度差があり、「出産が近づいてから」や「出産後に訪問します」などの、時間軸のズレがある。
		入院管理されているため、地域がどのように受け止め考えているのか分からない事がある。（情報提供に対する返事がない）
地域から連絡が来なかったり、連絡が遅い（9）	妊娠期に既に地域で介入しているケースについて連絡がないことがある（3）	地域ですでに介入しているという情報が伝わってこないことがある
		地域で特定妊婦とされていても、その情報が病院に入らない 産後に連絡すると、「実は・・・」と言われることがあり、妊娠中～その情報が入っていればもっと詳細に情報を取り支援につなげられたのに、と思うことが多い
		助産師との面談や、チェックリストで判断した結果、必要時MSWに妊婦の情報を保健所へ連絡してもらう事があります。その時に特定妊婦であることを知ることがあるので早期に分かっていれば初期面談から介入することができると考えます。
	妊娠期の情報が地域からこない（3）	地域から妊娠期（入院前）の情報がなく、入院してから育児支援を受けられない状況であることに不安をもったまま分娩に至るケースがある。地域から病院への情報提供はほとんどない。 産後養育支援依頼した場合に、訪問の結果の返書のみくる。
		前回の妊娠で虐待などがあったとしても、児相から情報がくることがなく、かなりあとでわかることがある。
		病院側から行政に連絡することの方が多い気がする
	地域に連絡しても返信がなかったり遅い場合がある（3）	連携後の返信が遅く、地域で何をしたのか不明。単に情報の受け入れだけなのかと感じる場合も多い。（b）
		地域によっては支援状況の返信がないため、支援内容が把握しにくい。
		情報提供しても反応のない場合

（3）妊娠期に地域保健と連携する事例
妊娠期から地域と連携して支援する事例には、「心理社会的なハイリスク事例」「身体的（合併症がある）、精神的（うつなどの既往）、社会的（特定妊婦など）」「社会的・経済的ハイリスク、知的障害、養育能力に問題あり、夫婦とも精神疾患、里子に出すなど自分で育てない場合」「入院中のかかわり、対応では解決できない場合、社会的・心理的ハイリスクの事例など」「地域が把握できていないが、（妊娠期）早期に介入が重要であると判断した場合」などの事例があった。

社会的心理的なハイリスク妊産婦は、産前からの地域との連携が不可欠であり、計画的な支援が必要である。またリスク要因を見極める看護職のアセスメントも重要であり、妊娠期のニーズに気づけることが求められている。

３）出産後の地域保健との連携に関する実際と課題

出産後のハイリスク妊産婦の地域への連絡の課題をまとめると、タイムリーな支援体制が整っておらず、病院と地域での認識が違う（20 件）、地域によって、連絡体制や支援に違いがある（12 件）、地域と情報共有が十分できていない（9 件）、対象者の同意を得ることが難しかったり、介入を好まない人がいる（7 件）、カンファレンスや事例検討を行うことができていない（7 件）、里帰り出産への対応において体制が整っていない（6 件）、地域のクリニックとの連携体制が整っていない（2 件）、保健師の負担がある（2 件）があげられた。

タイムリーな支援体制が整っていないことは、支援の必要な対象に必要な時期に支援が提供されないことであり、場合によっては緊急の事態を引き起こすこともあり、この課題については、早急に解決していく必要がある。病院と地域でとらえる問題が違ったり、時期にズレがあるという意見が多数上がっていたが、意見の相違を解決していくための方法を医療関係者と行政の母子保健担当者とで検討することが必要である。

４）産科病棟と産科外来との連携に関する課題

産科病棟と産科外来との連携については、以下の現状と課題が見出された。

現状としてできている点は、「妊娠期からプライマリー担当や助産師外来を設けて外来での保健指導を助産師が担当している」「病棟と外来のカンファレンスにより情報共有ができている」「病棟と外来はスタッフが同じで連携が取れている」などであった。課題については「病棟と外来のカンファレンスがない、または方法に課題がある」「人員の不足」「助産師のスキルや個人差の問題」があげられた。

５）コロナ禍における地域の保健師との連携の課題

コロナ禍における連携の課題として、「自宅への訪問が不足する傾向がある」「保健師との連絡会議がなかなか開催されない」「対面し情報交換する機会が減った、研修会などの機会にも情報交換ができたが、それも研修会がないためできなくなった」「コロナで家族の支援やサービスが得られず育児をしている方もいるのでその対応」「患者さんによっては訪問を避けたがる」などの課題が認められた。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計7件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 服部律子	４．巻 41
２．論文標題 初産婦で双子のお母さん	５．発行年 2022年
３．雑誌名 ペリネイタルケア	６．最初と最後の頁 32‐36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 服部律子	４．巻 73
２．論文標題 三つ子の1人への傷害致死事件を考える　母親の苦悩と孤独を救える助産師に	５．発行年 2019年
３．雑誌名 助産雑誌	６．最初と最後の頁 574-577
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 服部律子、糸井川聖子	４．巻 73
２．論文標題 【多胎出産をした母親と家族へ必要なサポートとは】当事者主体の多胎支援とは　ぎふ多胎ネットの取り組み	５．発行年 2019年
３．雑誌名 助産雑誌	６．最初と最後の頁 021-1024
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 服部律子、武田順子、名和文香、布原佳奈、松山久美、田中真理、小森春佳、澤田麻衣子	４．巻 19
２．論文標題 助産師が認識する「気になる母子」への対応と他機関との連携に関する研究	５．発行年 2019年
３．雑誌名 岐阜県立看護大学紀要	６．最初と最後の頁 63‐73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 服部律子	4．巻 41
2．論文標題 初産婦で双子のお母さん	5．発行年 2022年
3．雑誌名 ペリネイタルケア	6．最初と最後の頁 984-988
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 服部律子	4．巻 39
2．論文標題 周産期の最新情報C-A-T-C-H THE NOW　動き出した多胎妊産婦の支援事業　2020年度より厚生労働省が自治体補助を開始	5．発行年 2020年
3．雑誌名 ペリネイタルケア	6．最初と最後の頁 1196-1201
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 名和文香	4．巻 20
2．論文標題 産科クリニックの助産師が捉える妊娠期における連携の現状と課題の検討	5．発行年 2020年
3．雑誌名 岐阜県立看護大紀要	6．最初と最後の頁 89-97
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 布施晴美、大木秀一、大高恵美、落合世津子、佐藤美喜子、志村恵、服部律子、松葉敬文、大岸弘子、糸井川誠子、田中輝子
2．発表標題 乳児期の多胎児を育てている家庭における育児困難と育児支援ニーズ　虐待未然防止の観点から
3．学会等名 小児保健研究学会
4．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	布原　佳奈 (Nunohara kana) (10295628)	岐阜県立看護大学・看護学部・教授 (23702)	
研究分担者	松山　久美 (matsuyama kumi) (20770316)	岐阜県立看護大学・看護学部・講師 (23702)	
研究分担者	名和　文香 (nawa humika) (30346241)	岐阜県立看護大学・看護学部・准教授 (23702)	
研究分担者	小森　春佳 (komori haruka) (30839460)	岐阜県立看護大学・看護学部・助教 (23702)	
研究分担者	武田　順子 (takeda junko) (90457911)	岐阜県立看護大学・看護学部・講師 (23702)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関